

# クロダイの放流効果と可能性

～ 資源増殖への取組と新知見 ～

(公社)富山県農林水産公社 氷見栽培漁業センター

主任 横越 淳

## 1 背景・ねらい

クロダイは古くから沿岸漁業および遊漁の対象とされ、日本人の食生活、地域文化を支えてきた重要魚種のひとつで、本県では、年間平均で約 36 t の漁獲量がある。

これらの有用資源を持続的に利用するといった漁業関係者のニーズに応えるべく「つくり育てる漁業」の取り組みとして、昭和 63 年からクロダイの種苗生産と放流が行われてきた。クロダイは野性味が強いため、親魚および稚魚の飼育は困難を極めたが、飼育技術の開発と向上に伴い近年では全長 5cm サイズの種苗約 18 万尾を安定的に生産することが可能となっている。

このため氷見栽培漁業センターは、栽培漁業を今後発展させて行くステップとして、平成 22 年度から種苗放流の効果を把握する目的で調査を行っており、今回は、調査結果の一部を紹介する。

## 2 成果の概要

- (1) 標識放流の結果から、クロダイ種苗は 1 歳で約 15cm(尾叉長)、2 歳で約 22cm、3 歳で約 25cm に成長するものと推測された。
- (2) 標識放流した個体の移動状況から、クロダイ種苗は放流海域付近の沿岸域において成育するものとみられた。
- (3) 産地市場において漁獲物の尾叉長組成等を調べた結果、20cm 未満の個体は殆どみられなかった。
- (4) クロダイは 0～1 歳の幼魚期に漁獲対象とされていないため、「不合理な漁獲減耗」が小さいことに加え、移動範囲が小さいことから、種苗放流が付近海域における漁獲量の増大に繋がる可能性が高い「有望魚種」であると考えられる。

## 3 成果の活用面・留意点

本成果は放流効果の推定および資源解析の基礎資料として活用される。

調査は継続中であり、腹鰭の片方が無いクロダイを発見された場合には、お知らせ願います。

## 4 問い合わせ先

(公社)富山県農林水産公社 氷見栽培漁業センター

担 当：横越 淳

T E L：0766-79-1521

(参考) 具体的データ

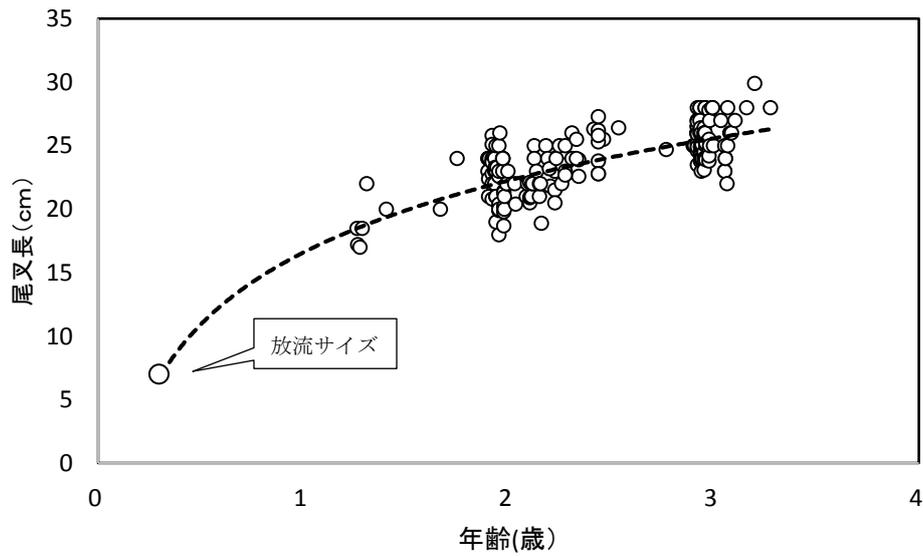


図1 市場で確認された標識放流魚(腹鰭抜去)の年齢と尾叉長の関係

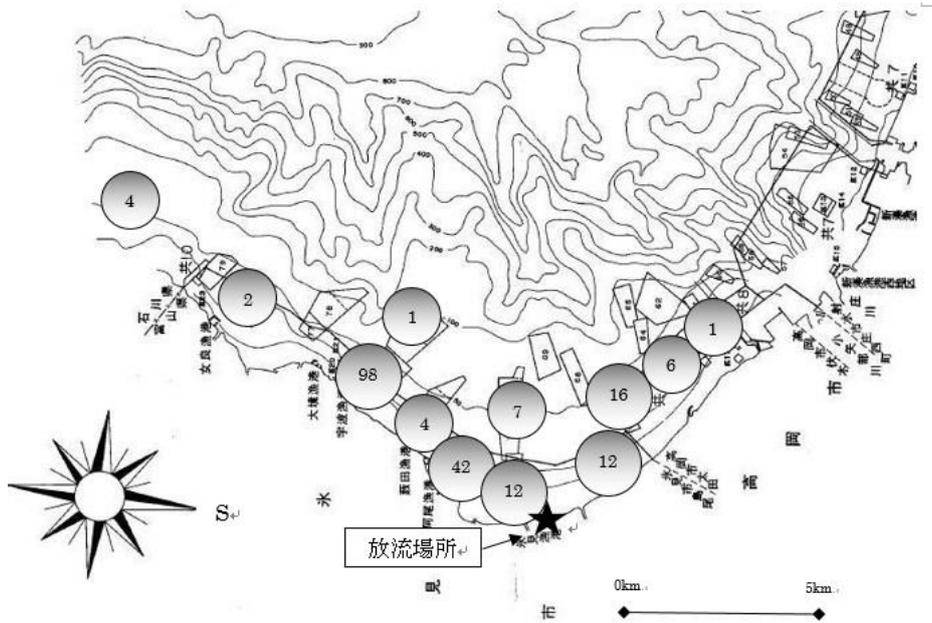


図2 標識放流した場所と、採捕された漁場(丸内の数字は、その尾数)

表1 標識放流した尾数と、年級群別の累積採捕尾数及び採捕率

放流年度	尾数	H22	H23	H24	H25※	累積再捕数	再捕率
H22	12,000	0	0	27	96	123	1.03%
H23	14,000	-	0	7	75	82	0.59%
H24	13,000	-	-	0	1	1	0.01%
H25	12,000	-	-	-	0	0	0.00%

※H25.10月現在